

## 令和3年度 一人一人の確かな学力のために

## 4年

		学年の目標	1学期末の児童の様子	3学期末の児童の様子
基礎・基本	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の確実な定着を目指します。学期末、学年末のテストで90点以上を合格とし、9割以上の児童が合格できることを目指します。小テストでは100点になるまで間違いない直しを行います。</li> <li>文章を正確に読み取る力を高めることができるように、根拠となる言葉やキーワードとなる言葉にサイドラインを引き、考えながら読むことができる児童を目指します。</li> <li>主語や述語の関係をはっきりさせ、分かりやすい文章表現ができる児童を目指します。そのために、毎週日記に取り組み一度書いた文章を読み直し、句読点や主語の漏れが無いかを確認する習慣を身に付けさせます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テスト直しを確実に行うことで、学期末のテストでは8割の児童が合格点を取ることができました。今後も継続して力の伸ばしていきます。</li> <li>根拠となる言葉やキーワードを見つけ出すことは少しずつ出てきています。引き続きサイドラインを引かせることや要約をしていくことで考えて読む力を高めています。</li> <li>日記を継続して書くことで伝えたい事を明らかにした文章を書く児童が増えてきています。一文を短くすることや気持ちを表す表現を増やしていくことでより具体的に書けるよう指導していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テスト直しを行うことで8割の児童が合格点を取ることができました。学年末にさらに伸ばしていけるよう、残りの日々でまとめを行っていきます。</li> <li>大事な言葉やキーワードを見付ける説明文の要約の仕方を学んだことで、読み取る力、要約して考えて読む力が伸びました。</li> <li>日記を継続して書いていた児童に関しては、自分の伝えたい事を表現する方法が増え具体的な文章が書けるようになりました。しかし、提出が7割程度だったのが課題となりました。</li> </ul>
	算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項の定着を図るために、計算ドリルを繰り返し活用して、問題を確実に解くことができるように取り組みます。必ず答え合わせを行い、間違いを直す習慣を付けられるようにします。</li> <li>単元のテスト直しを実施し、必ず内容が理解できるようにします。</li> <li>上記の事を行い、知識・技能の項目を全員が9割以上定着できるようにします。</li> <li>思考力を高めるために、答えの求め方やなぜそうなるのか説明を書くことで、思考力を高めています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドリルだけでなく、eライブラリアドバンスも活用しながら確実に問題が解けるようにしています。自分で丸付けをすることで間違いをそのままにしないようにしていくことはまだ不十分なところもあるので、繰り返し指導していきます。</li> <li>単元テスト直しを確実に行うことで、間違いを繰り返さないようになってきています。</li> <li>思考力はまだ弱いので、答えの説明することを繰り返したり、説明の仕方を学んだりすることで、高めていくことを続けていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返し学習すること、復習することを通して自力で解くことができる問題が増えてきました。丸付けで間違いを直すということも継続していくことで正確さも身に付いてきました。</li> <li>テストの間違い直しや同じ問題を繰り返し解くことを通して、確実に学力を身に付けることができるようになりました。</li> <li>なぜそうなるのかと問い続けることで、理由を考えたり、友達の考えを聞いて自分の考えとつなげたりして考える力が少しずつ伸びてきました。残りの日々でさらに高められるようにしていきます。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館を活用して、週1回程度図書の貸し出しを行い、読書に慣れ親しませます。普段から、マイブックを用意し、本をすぐに読める習慣を身に付けさせます。また、「読書貯金」に読んだページ数を記録させ、全員が年間7000ページを達成できるようにします。</li> <li>ふるさと学習では江戸扇子を作成します。作るだけでなく、歴史や工程、職人の思いなどにも触れて地域を愛する気持ちを育てます。</li> <li>社会「ごみのゆくえ」や理科「季節の生き物」、外国語活動などの学習からSDGsについても触れ、世界の環境について何ができるか考えられる児童を育てます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字の多い小説やシリーズ物の物語など、読む本が6月の読書月間にも目標ページを決め、少しずつ目標が達成できるようにさせています。</li> <li>ふるさと学習は2学期に予定しています。そのため、学習時期が近くなりましたら学習を進めていきます。</li> <li>社会科の学習では、江戸川区環境部清掃課ごみ減量係の方に来ていただき、リサイクルについて学びました。また、理科の学習では季節ごとに篠崎公園に行き、身近な自然について学びました。今後も普段の生活とも関連させながらより意識させていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1ページの文字数が多い本を読むようになりました。しかし、目標の5000ページを達成する児童は6割程度でした。</li> <li>2学期末に行ったふるさと学習「江戸扇子作り」では全員が自分だけの江戸扇子を作ることができました。社会の伝統文化の学習とも関連させながら伝統を守ることの苦労や大切さも学ぶことができました。</li> <li>社会の学習を元に学習発表会「ごみ問題について考えよう」で学習の成果を紹介することができました。理科自然観察も3回行ったり、TGGIに行ったり外国語を学んだり様々な活動を行うことができました。</li> </ul>
思考力・判断力	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題に対して、予想を立てて追求していく学習方法が身に付けられるよう、学習のめあてや課題をもち、振り返るという活動を継続的にいきます。また、考えたことを自分の言葉で書いて表現することを積み重ねます。</li> <li>自分の考えをもち、友達に伝え合うことができる児童を目指します。そのために、クラス内や小グループでの話し合い活動をフェイスシールドを着用しながら行い、自分の考えたことを伝え合ったり、友達の意見との違いを考えたりできるように指導します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りを書くことで、学んだことをしっかりと自分の物にすることができています。また、タブレットを用いて友達の考えも共有することでより学びが深まったり、表現方法を学んだりしています。</li> <li>話し合い活動では、話がそれないように話し合う内容を確認したり、どのように伝えたら相手に伝わるのかということを示したりしながら話し合いのスキルを高めています。また、話し合う前に自分の意見を持つことで、意見を言いやすくさせています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業時間で学んだことを自分の言葉でまとめることができるようになった児童が増えました。また、様々な友達の意見を聞くことで自分の考えを持つことができるようになったり、友達に伝えたりすることができる児童が7割程度まで増えました。</li> <li>話し合い活動では、司会を経験することで話をまとめることの難しさを学ぶことができました。自分の考えを持って話し合いに臨むことで友達に意見を伝えることのできる児童が増えました。</li> </ul>	
学習習慣	<ul style="list-style-type: none"> <li>話すこと、聞くことの大切さを意識化させるために、聞いている人の方を向いて話すこと、相手の話を受けて話すこと、話している人の方を向いて聞いたりメモを取りながら聞いたりすることを指導していきます。</li> <li>家庭学習を60分(15分×学年)取り組むことを目指します。そのために、自主学習を行う機会を設定し、よく取り組んでいる児童のノートを紹介したり、「鹿骨東小家庭学習のきまり」を参考にしたりして、自分の課題に合った学習に取り組めるように段階的に指導していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語の学習で、メモを取る時に箇条書きで書くことや大切なことを書くことを学びました。朝会の話やメモすることを行い、力を伸ばしていきます。話の聞き方はよくできている児童が多いので、継続できるようにしていきます。</li> <li>家庭学習では、60分の時間を意識して取り組もうとする姿が多く見られました。自主学習は復習をしたり調べ物をしたり自分の課題に向き合っている姿が見られます。今後はタブレットも活用していきながらより深い学びになるように指導していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の伝わるように言葉を選んだり、相手のほうを見て話を伝えたりすることができる児童が7割程度に増えました。話の聞き方も姿勢よく、相手のほうを向いて聞くことのできている児童が8割程度になりました。</li> <li>家庭学習期間において60分取り組むことができる児童が8割程度でした。自主学習の内容について、タブレットを活用して調べ学習を行ったり、eライブラリ学習に取り組む姿も見られるようになりました。</li> </ul>	